

「うみかぜセミナー：発達障害と歩む」のご案内

滋賀県立大学子どもの未来応援プロジェクトでは、子どもたちの健やかな育ちを応援するため、さまざまなとりくみをおこなっています。発達心理学、栄養学、助産学分野の研究をはじめ、母子支援活動を進めて、子育てに携わっているみなさんと幅広く連携していきたいと考えています。その一環として、このたび、「うみかぜセミナー：発達障害と歩む（全4回）」を開催することになりました。本セミナーでは、主に保育士や教員、臨床発達心理士など子育て支援にかかわる方々を対象に、「保育と発達支援の専門性」を高める研修の場となることをめざしています。上記専門職以外で関心をお持ちの方々のご来聴も歓迎いたします。

＜セミナー実施日程＞（第3回の会場は滋賀県立大学交流センター1階研修室、13時30分～15時30分）

- 第1回 2010年 9月25日（土）宮崎信恵監督作品「あした天気になる？ 発達障がいのある人たちの生活記録」上映会
助言者 川崎昭仁氏（社会福祉法人ひかり福祉たんぽぽ作業所センター長）
- 第2回 2010年11月13日（土）赤木和重氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）講演
「自閉症教育で大事にしたいこと：『障害特性に応じた教育』再考」
- 第3回 2011年 1月29日（土）木下孝司氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）講演
「乳幼児期の発達と障害をもつ子どもの保育・療育」
- 第4回 2011年 3月 5日（土）石川憲彦氏（林試の森クリニック院長）講演「『発達障害』の医療：効用と限界」

第3回は下記の内容でおこないます。

乳幼児期の発達と障害をもつ子どもの保育・療育 木下孝司氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

講師プロフィール

京都大学大学院教育学研究科を修了後、静岡大学を経て神戸大学に勤務。2009年より現職。専門は発達心理学（京都大学博士・教育学）。これまで、乳幼児の「心の理論」と自己の発達、教えあう関係の成立過程など、乳幼児や障害をもつ子どもたちが、発達の主体となり、相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究してこられました。生活の主人公になるための条件、遊びに没頭できるための条件などについても、現場の先生方と実践場面の観察や実践記録の協議を踏まえて検討されています。今回は、乳幼児期の「自らを変えていく発達のプロセス」についてお話いただくとともに、できないことができるようになるという点だけではなく、もてる能力を生かす場が広がり、それが他者との共同を導いていくことになる発達の方向性など、障害をもつ子どもの発達と保育・教育の相互関係についても留意すべきポイントをお話いただきます。

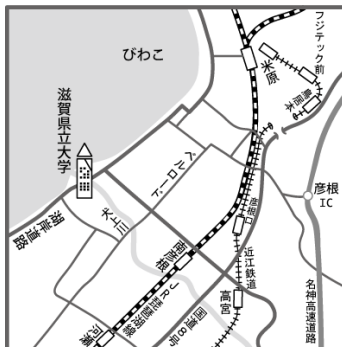
《注》

- 木下孝司「乳幼児期における自己と「心の理解」の発達」ナカニシヤ出版
- 木下孝司「子どもの発達に共感するとき — 保育・障害児教育に学ぶ」
全国障害者問題研究会出版



日時：2011年1月29日（土）13時30分～15時30分

会場：滋賀県立大学交流センター1階研修室 参加費：無料（事前登録も必要ありません。）



▼ JR南彦根駅からバスで13分/タクシーで8分

▼ JR彦根駅からバスで16分/タクシーで10分

主催：滋賀県立大学人間文化学部・
滋賀県立大学子どもの未来応援プロジェクト
後援：日本臨床発達心理士会関西支部

＜問合せ先＞ 滋賀県立大学子どもの未来応援プロジェクト
〒522-8533 彦根市八坂町2500

滋賀県立大学人間文化学部 竹下秀子研究室気付
子育て応援ラボうみかぜ

Tel: 090-7343-2405 Fax: 0749-28-8559

E-mail: usp-umikaze@nifty.com